

文部科学省委託事業  
「様々な居場所における子どもの  
読書活動習慣形成事業」実施報告等

令和3年12月22日  
地域教育振興課

## 事業内容

- (1) フリースクールのへ貸出サービスの実施
- (2) オーサービジットの実施
- (3) 子ども向け図書館案内リーフレットの作成
- (4) 事業報告会議の開催

## 本日の流れ

- 事務局より
  - ・ 事業実施報告 ※事業が完了していないもの【(1)、(3)、(4)】は、経過報告
  - ・ 次年度以降の子ども読書活動推進の充実に向けて



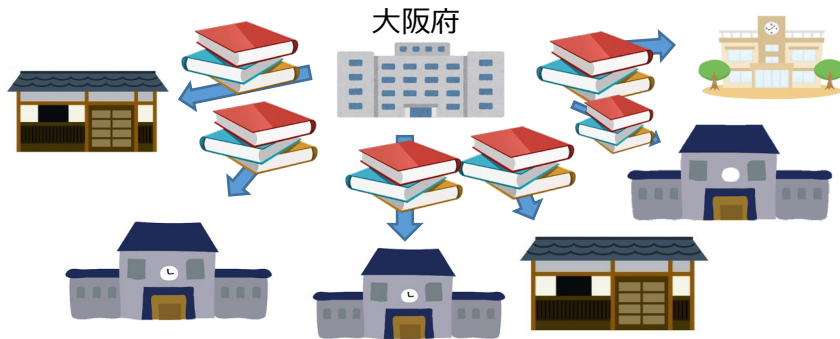
- 社会教育委員の皆様にご助言いただきたいこと
  - ・ 次年度以降の子ども読書活動推進に対するご意見等

## 事業内容

フリースクールへの貸出サービスを実施するとともに、子どもが本を読んだ感想やコメントなどを本の帯やPOPに表現し、作成した本の帯やPOPを本に添付して次の団体に貸出を行う。

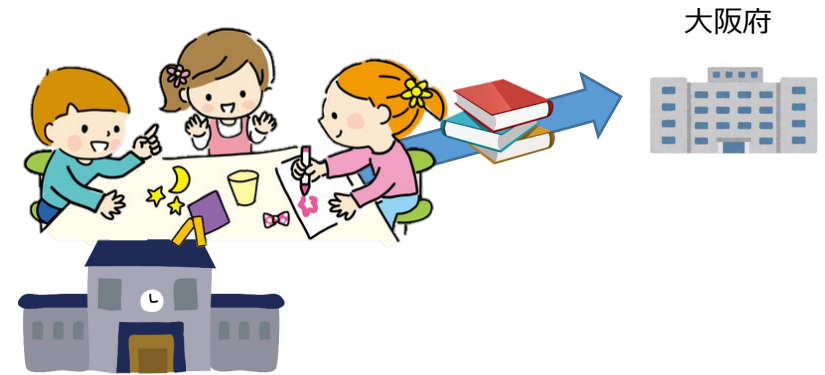
**目的** 子どもの身近な場所にあまり本がないことが想定されるフリースクールに対し、「読みたいと思える本」を届けるとともに、同世代の子どもから本の紹介をされることで、より読書への興味関心を高める。

- ① 不登校児童生徒が在籍するフリースクール（6団体）に対して、図書セットの貸出。



※図書セットは、府立図書館子ども読書担当課にて、幅広い種類の本を選書し、6種類用意する。

- ② 本を読んだ子どもが本の帯やPOPを作成し、図書セットに添付し、大阪府に返送。



- ②で作成された本の帯やPOPを、図書セットに添付した状態で、①同様に次の団体に貸出す。（計3回）  
（スケジュール）

- ③ 貸出サービス終了後、府立中央図書館にて、本の帯やPOPを展示する。



時期	内容
6月	貸出図書セットの作成（別紙1）参照
7月	貸出図書セット希望フリースクール募集（6団体）
8月～12月	貸出前、事前に子どもへアンケートを実施 フリースクールへの貸出サービス（計3回） 貸出終了後、施設職員、子どもへアンケートへ実施
1月	府立中央図書館にて、展示

# 事業（1）フリースクールへの貸出サービスの実施報告①

## 計画からの変更点

- 実施団体数の変更（6団体→4団体）  
6団体を対象に貸出を行う予定であったが、府内フリースクールに募集をかけた結果、4団体のみ応募であった。

**理由**（応募しなかった団体職員へのヒアリング結果）

- ・貸出セットの管理に不安を感じる。紛失や破損など
- ・コロナ禍のため、フリースクールに来ずに、オンラインで活動している。
- ・コロナ禍のため、経営状況が厳しく、新しい取組を行う余裕がない。
- ・POP作成ができない。

（上記変更に伴う変更）

- 貸出回数の変更（3回→4回）  
実施団体数が計画より少なく、計画通りの貸出回数では事業効果（本の貸出、POP添付）を図ることが難しいと判断し、貸出回数を1回増やした。
- 貸出期間の変更等（12月まで→1月まで）  
（計画）

時期	内容
6月	貸出図書セットの作成（別紙1）参照
7月	貸出図書セット希望フリースクール募集（6団体）
8月～12月	貸出前、事前に子どもへアンケートを実施 フリースクールへの貸出サービス（計3回） 貸出終了後、施設職員、子どもへアンケートへ実施
1月	府立中央図書館にて、展示



（現状）

時期	内容
6月	貸出図書セットの作成（別紙1）参照
7月	貸出図書セット希望フリースクール募集（ <u>4団体</u> ）
8月～ <u>1月</u>	貸出前、事前に子どもへアンケートを実施 フリースクールへの貸出サービス（ <u>計4回</u> ） 貸出終了後、施設職員、子どもへアンケートへ実施
<u>2月</u>	府立中央図書館にて、展示

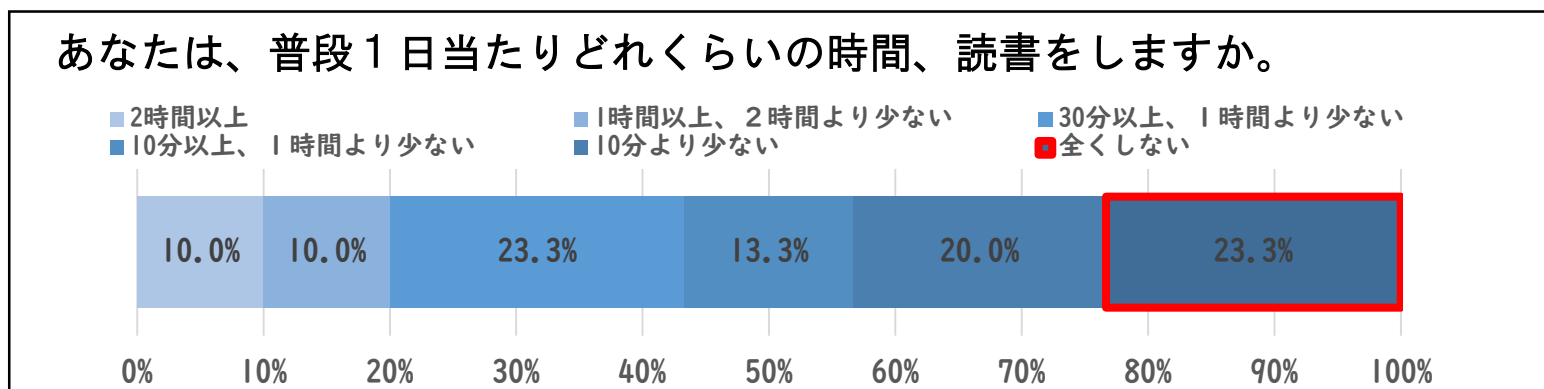
# 事業（1）フリースクールへの貸出サービスの実施報告②

事業が終了していないため、現時点の経過を報告します。

## ○ 事業実施前のアンケート結果

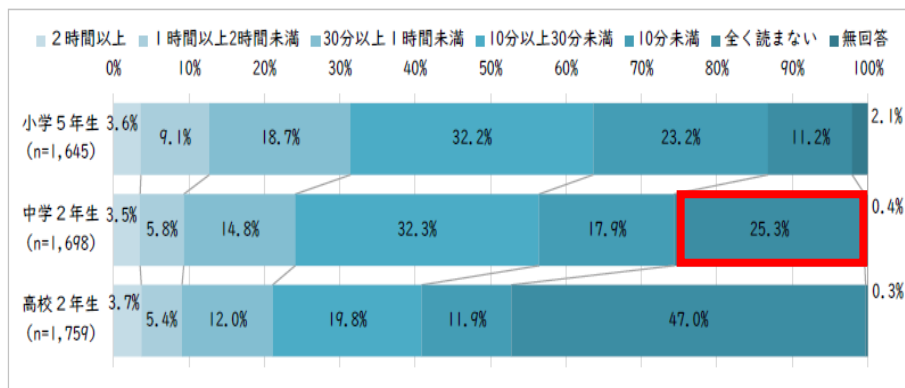
調査対象：府内フリースクール4団体の子ども（中学生の子どもが大半）

回答人数：30人



(参考資料) 令和元年度大阪府子ども読書活動調査

(4) 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



(わかったこと)

- ・令和元年度調査と比較すると同年齢の「全く読まない」の回答割合はほぼ同じ
- ・令和元年度調査と比較するとフリースクールに通う子どもの方が「10分以上、1時間未満」と回答した割合が低く、「1時間以上」と回答した割合が高い
- ・フリースクールに通う子どもの読書時間は二極化







時間割

学習の時間	11:00~12:20
昼休み	12:20~13:00
自由時間	13:00~15:00

メリハリをつけて  
がんばるぞー!!

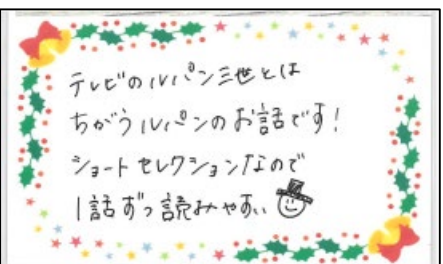
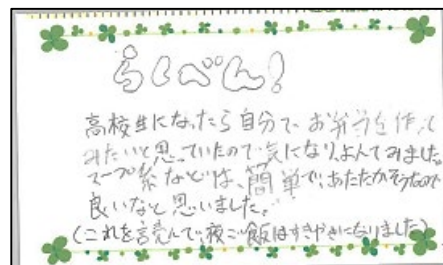
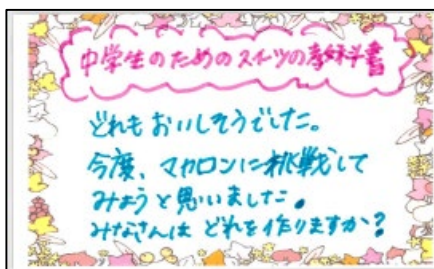
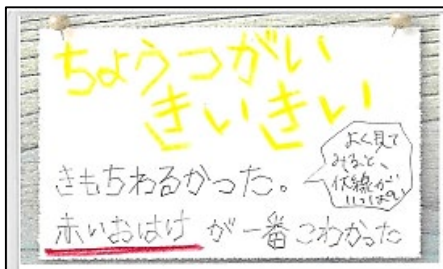
ABC ABC

食事の前には  
手を洗おう



# 事業（1）フリースクールへの貸出サービスの実施報告③

## ○ POP作成（一部掲載）



## （3回目終了時点）

- ・貸出した本の延べ冊数 ⇒ 347冊
- ・読まれた本の延べ冊数 ⇒ 106冊
- ・POPが作成された本の冊数 ⇒ 29冊
- ・POPが添付された後に読まれた本の冊数 ⇒ 3冊

## 読まれた本のジャンル（延べ数）

●読み物	15冊	(全90冊のうち)
●マンガ	12冊	(全30冊のうち)
●ムック本	6冊	(全20冊のうち)
●名言	7冊	(全20冊のうち)
●SNS	4冊	(全10冊のうち)
●絵本	22冊	(全40冊のうち)
●工芸・工作	3冊	(全10冊のうち)
●こころ・生き方	2冊	(全10冊のうち)
●雑学・時事	3冊	(全10冊のうち)
●スポーツ	5冊	(全10冊のうち)
●知識	2冊	(全20冊のうち)
●芸術・音楽	4冊	(全10冊のうち)
●伝記	0冊	(全10冊のうち)
●乗物・メカ	7冊	(全10冊のうち)
●ビジネス	0冊	(全10冊のうち)
●美容・ファッション	2冊	(全7冊のうち)
●保健・生活	3冊	(全10冊のうち)
●料理	9冊	(全20冊のうち)



# 事業（1）の総括（12月末時点）

## 《効果》

### ● 様々なジャンルの本がある図書セット

- ・ 普段、本を読んでいなかった子どもが本を読むきっかけとなった。
- ・ 普段、本を読んでいる子どもが、普段、読まないジャンルの本を読むきっかけとなった。
- ・ 目的や状況等に応じて、「物語の本を1冊読む」だけでなく、写真集を見たり、必要な情報を読み取ったりすることができた。

### ● POPの作成

- ・ 子どもが本を読んで感じたことや考えたことを、気軽に表現することができた。

## 《様々な子どもの居場所の現状》

- ①子どもの身近な居場所に本がない。
- ②子どもに携わる方の中には、公立図書館の貸出サービス等を把握されていない場合がある。
- ③貸出サービス等では、本の管理が難しい場合がある。
- ④子どもに携わる方が、選書に悩まれている場合がある。
- ⑤子どもの身近にある本が、読みたいと思う本ではない。

## 《今後の子ども読書活動の充実に向けて》

- ①② 様々な子どもの居場所に、公立図書館の貸出サービス等を周知する。
- ③ 様々な子どもの居場所に、リサイクル図書や本の寄贈に関する情報を周知する。
- ④⑤ 様々な子どもの居場所に、選書の参考とするため今回の図書セットのリストを書影付きで周知する。

## 事業内容

矯正施設（少年院）、児童自立支援施設、フリースクールへ本の著者（オーサー）が訪問（ビジット）し、お話やワークショップなどを実施する。

**目的** 本への興味関心のあるなしに関わらず、子どもが実際に本を制作した人から直接話しを聞くことや、ワークショップを体験することで、本を読む楽しさや興味関心を高める。

## 〈既存事業〉

平成29年度より大阪府では、小学校、教育保育施設を対象に、オーサービジット事業を実施しており、令和3年度より対象を拡充し、中学高校でも実施を予定している。

## 大阪府オーサービジット事業の流れ

- 1 学校園は、訪問を希望する作家を選び、大阪府教育庁へ応募する。
- 2 大阪府教育庁は、応募の中から訪問する学校園を決定する。
- 3 学校園の児童や生徒は、訪問が決定した作家の本を読み、感想や作家へのメッセージを記入した作品を作り、大阪府教育庁へ送る。
- 4 作家が学校園を訪問し、お話やワークショップを実施する。



## (実施方法及びスケジュール)

時期	内容
6月	協力いただける著者の調整
7月	訪問施設等の調整
8月～12月	<p>【事業実施前】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもに対しアンケートを実施する。</li> <li>● 施設において、訪問する本の著者の著作を読み、本の著者に宛てた作品（形式自由）を作成し、府教育庁へ送付する。</li> <li>● 府教育庁は、施設及び本の著者と実施内容、日程を調整する。</li> </ul> <p>【事業実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お話やワークショップの実施する。（45分程度／1回）</li> </ul> <p>【事業実施後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども、施設職員に対しアンケートを実施する。</li> </ul>

## (作品例)

子どもの感想や本の著者へのメッセージ等を描いた画用紙、色紙など

# 事業（２）オーサービジットの実施報告①

## 【実施施設・団体】

### 児童自立支援施設

・ 柏原市立桜坂小中学校（修徳学院内） 10月5日

### 矯正施設

・ 交野女子学院 10月20日

### フリースクール

・ フリースクール Ecole de らじえむ 12月3日



## 【訪問作家】

岡田 よしたか 氏

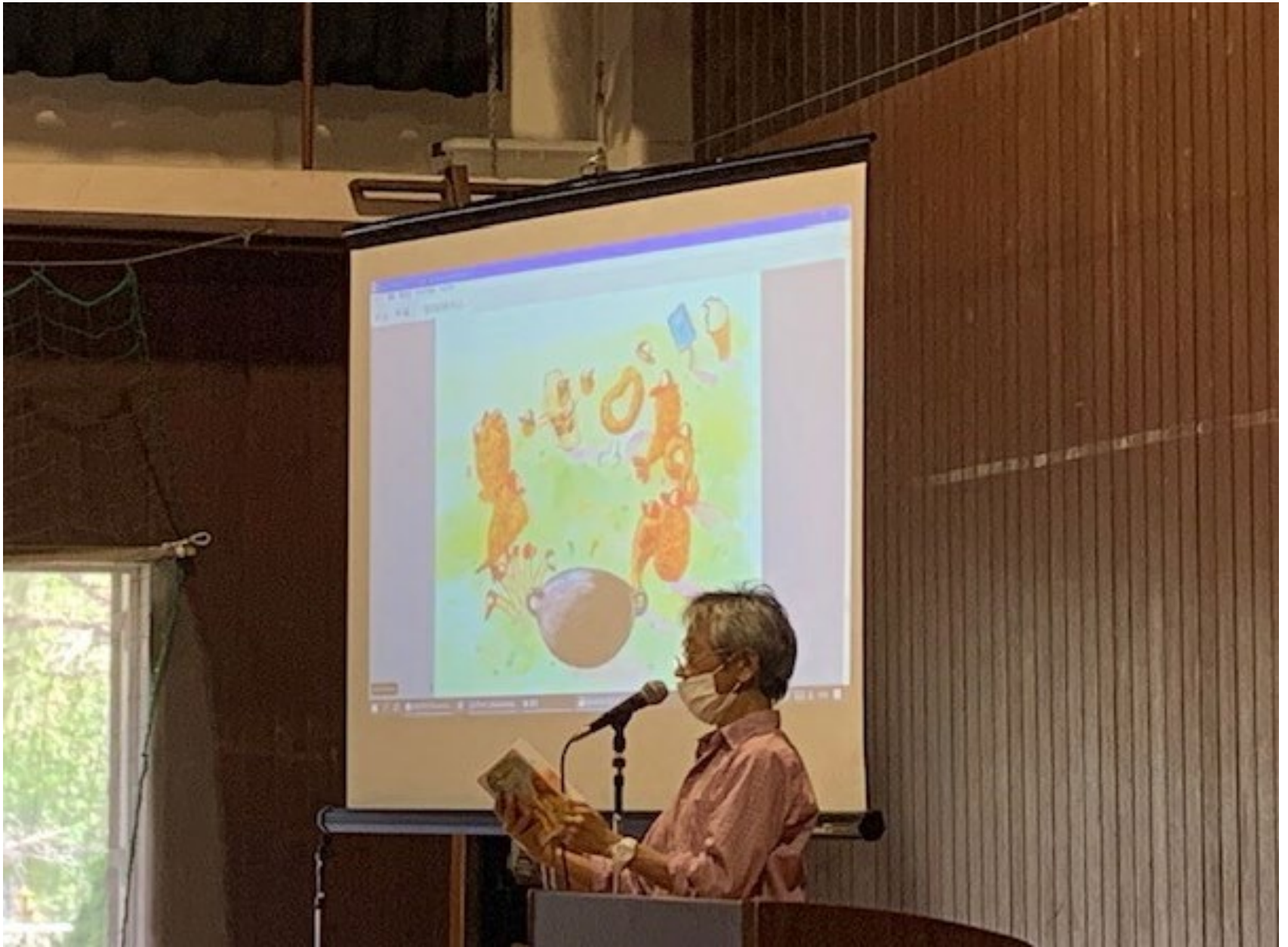


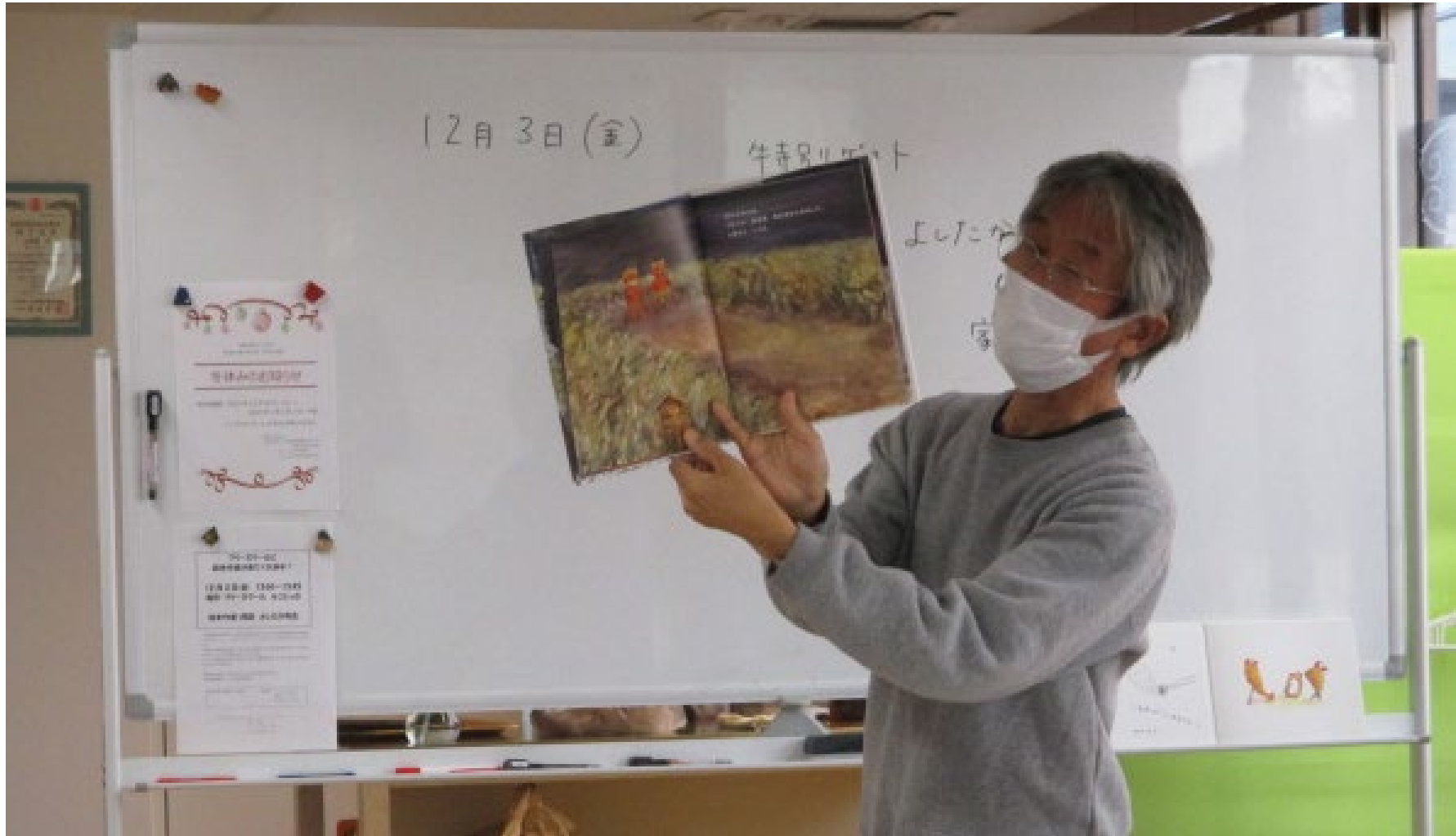
書名 うどんのうーやん  
著者名 岡田よしたか  
出版社 ブロンズ新社

## 【実施内容】 1時間程度

- 絵本の読み聞かせ 3～4冊
  - ・ うどんのうーやん
  - ・ うまいもんフライヤーズ など
- 作家への質疑応答
  - ・ 絵を書くときに、気をつけていることはなにか。
  - ・ どんなきっかけで物語が思い浮かぶのか。
  - ・ 絵本を作成するのにどれぐらいの時間がかかるか。





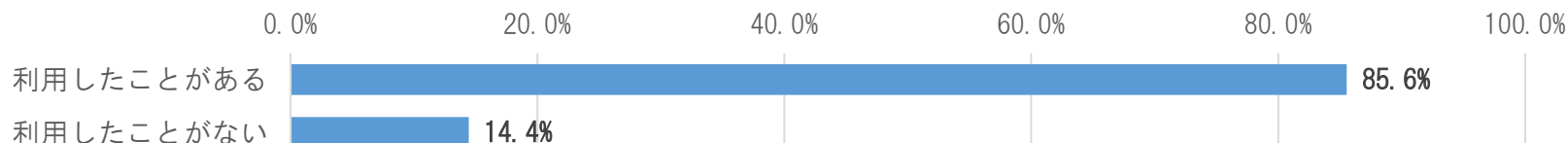


## アンケート結果

調査対象：実施施設・団体の子ども（中学生～20歳までの年齢）

回答人数：90人

質問① 「あなたは図書館を利用したことがありますか。」



（わかったこと）

- ・事業計画時において、施設職員等の意見や文献から、公立図書館の存在や利用方法をよく知らない者もいるということであったが、アンケートの結果、大半の子どもが過去に公立図書館を利用したことがある。

質問② 「あなたは普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。」

■2時間以上 ■1時間以上2時間未満 ■30分以上1時間未満 ■10分以上30分未満 ■10分未満 ■全くしない



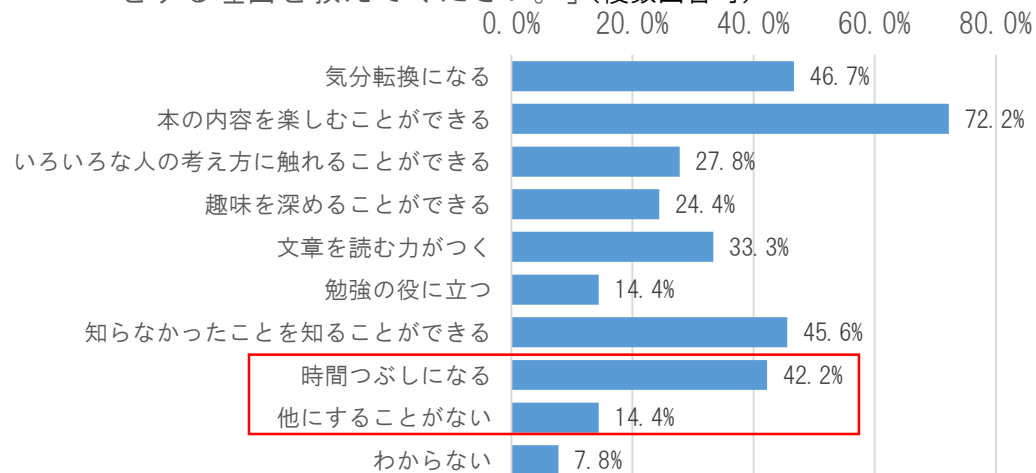
（わかったこと）

- ・令和元年度読書調査の同世代の結果と比較すると「全く読まない」と回答した割合は、低かった。



## アンケート結果

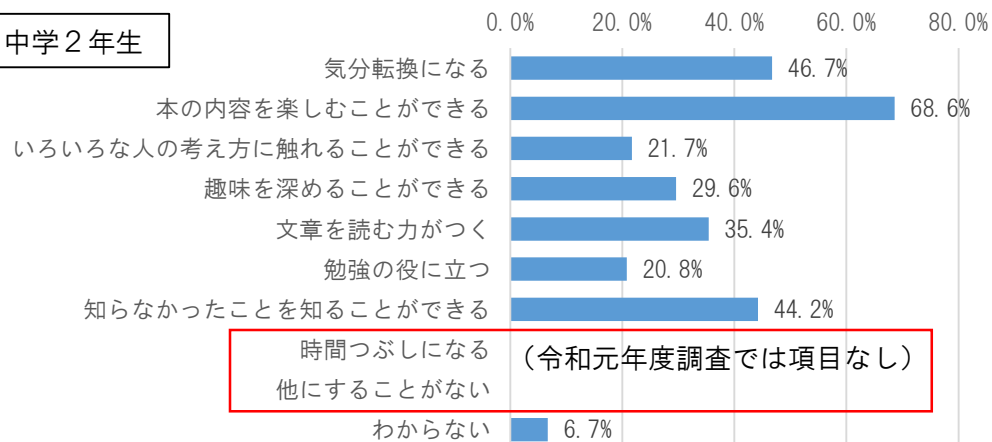
質問③「普段（作家さんのお話を聞く前）、あなたが読書をする理由を教えてください。」（複数回答可）



（参考資料）令和元年度大阪府子ども読書活動調査

「読書をする理由を教えてください。」（複数回答可）

中学2年生

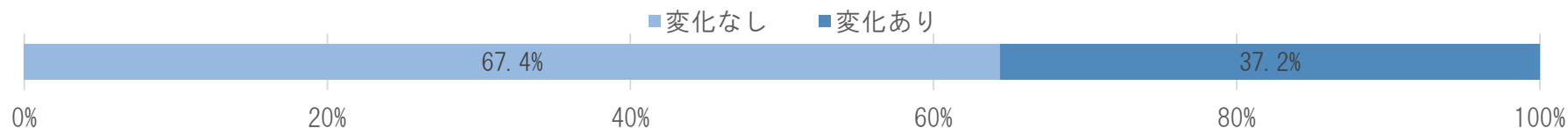


（わかったこと）

- ・ 令和元年度読書調査では、「時間つぶしになる」「他にすることがない」の選択肢がなかったため、その部分については、比較できないがそれ以外の選択肢については、「本の内容を楽しむことができる」「気分転換になる」「知らなかったことを知ることができる」と回答する子どもの割合が高いなど、同様の傾向がある。

## アンケート結果

質問④「作家さんのお話を聞いて、質問③で答えた理由に変化はありましたか。」



- ・質問③にて「時間つぶしになる」と回答した子どもの76.3%、「他にすることがない」と回答した子どもの76.9%が質問④にて「変化あり」と回答した。

### 変化があったこと等（記述）1部抜粋

- ・普段、絵本を読まなかったが、話を聞いて、おもしろいと思い、絵本を読んでもみようと思った。
- ・話を聞く前は「面白そう」と思った本だけを読んでいたが、話を聞いて「面白そう」と思わなくても、手に取って読むと、面白い本に出合えることがわかった。いろんな本を読んでいこうと思った。
- ・話を聞くまで、本があることは当たり前のことだと思っていたが、1冊の本になるまで時間をかけ、根気強く作っていることを知り、本の大切さがわかった。
- ・作られた話の元がわかって、奥が深いと感じた。
- ・作家さんもはじめから作家になろうとしたのではなく、色々な経験をして作家になったので、職業の幅って広いなと感じた。

### （わかったこと）

オーサービジットを実施したことで、「時間つぶしになる」「他にすることがない」と回答した子どもの読書をする理由に変化があり、本の楽しさを感じる子どもや、読む本のジャンルを広げてみようと思う子どもがいることがわかった。  
作家から、直接、話を聞くことは、子どもが読書への興味・関心を高めるために、有効であることがわかった。

## 《効果》

### ● 様々な子どもの居場所での読書イベントの実施

- ・本に興味がある子どもも、そうでない子どもも参加することができ、本への興味関心を持つきっかけづくりとなった。

### ● 作家から子どもへの講演の実施

- ・本作成の思いや考えを直接聞き、子どもがより本の内容に興味を沸いたり、本の大切さを理解することができた。

### ● 絵本の読み聞かせの実施

- ・絵と音で本の内容を把握することができ、文字を読むことが苦手な子どもも本に親しむことができた。
- ・子どもが読み聞かせの手法を学ぶことができた。

## 《様々な子どもの居場所の現状》

- ① 読書に関するイベントは、様々な子どもの居場所で開催されているが、人的な要因や時間的な要因などで実施していないところもある。
- ② 読書活動を主目的としない居場所での読書に関するイベントが少ない。

## 《今後の子ども読書活動の充実に向けて》

①②

現在、学校園に府が実施しているオーサービジット事業を、学校以外の様々な子どもの居場所も募集対象に拡充することを検討する。



# 事業内容（3）子ども向け図書館案内リーフレットの作成

## 事業内容

子ども向けの図書館案内リーフレットを作成し、矯正施設（少年院）、児童自立支援施設等職員に周知し、子どもが施設を出る時に、子どもに配布する。

**目的** 子どもに対し、図書館についての情報提供を行い、施設を出る時に、子どもが必要な知識を得たい時や、悩んだときなどに、図書館を利用できるようにする。

### 【第1回資料からの変更について】

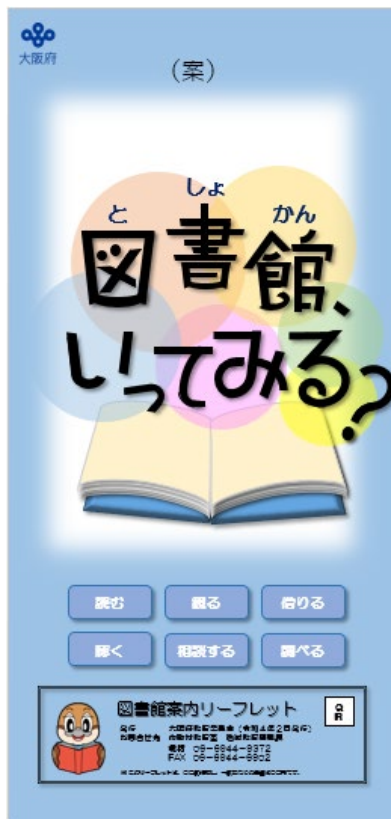
- ①サイズを縮小
- ②文字数を減少
- ③イラストを多用
- ④表紙タイトルの変更

(案)

- ・ 図書館、いってみる？

(その他候補)

- ・ 図書館、いってみたい？
- ・ 図書館があるよ
- ・ さあ、図書館に行こう



※別添リーフレット参照

### 活用方法

- 利用したことがない子ども  
⇒図書館の存在や利用方法を周知
- 利用したことがある子ども  
⇒身近に図書館があることを周知  
⇒知識を得たい時や悩んだ時に  
図書館サービス（レファレンス等）  
が活用できることを周知

### 今後のスケジュール

- ・計画どおり、矯正施設、児童自立支援施設等に配布する。

時期	内容
1月	各市町村立図書館へ照会
2月	リーフレットの印刷・配付

## 《様々な子どもの居場所の現状》

- ① 府内の在留外国人は、増加傾向にあるとともに国籍も多様化傾向にある。
- ② 府において、日本語指導が必要な児童・生徒数及び言語数が増加傾向にある。
- ③ 小学生、中学生、高校生と学年が高くなるにつれて、公立図書館をあまり利用しない傾向にある。

## 《今後の子ども読書活動の充実に向けて》

- ①② リーフレットを多言語化（やさしい日本語も含む）し、HPに掲載する。  
HPに掲載されていることを周知するための多言語チラシを作成し、関係機関に配布する。
- ③ 府内の高等学校及び支援学校高等部等へリーフレットの電子データを情報共有する。

# 事業内容（４） 事業報告会議の開催

## 事業目的

（１）～（３）の事業について、様々な子どもの居場所の職員等を対象に、事業報告を行い、参加者が交流することで、今後の様々な子どもの居場所における読書活動の充実に資する。

【実施時期】 2月中旬

【参加対象者】

様々な子どもの居場所の職員等

【会議内容】

- 事業報告（府職員）
  - ・ 令和3年度事業について
  - ・ 国事業について
- 実施報告（フリースクール職員等）
  - ・ 施設・団体の子どもの読書活動の現状と課題
  - ・ 事業報告
- グループワーク  
「様々な子どもの居場所における読書活動の充実」交流
- 情報提供
  - ・ 子ども向け図書館案内リーフレットについて
  - ・ 令和4年度事業について